

平成30年9月5日

静岡県健康福祉部障害者政策課

平成30年度「障害を理由とする差別解消推進県民会議」の参加報告

開催日時 平成30年9月3日（月）午後3時から

場 所 もくせい会館 富士ホール

参加者 227の参画団体の関係者約250人

(本会参加者：事務局長)

会進行に「手話」「スクリーンへの文字通訳」など、障害者が会の内容がわかるように配慮された会場で、多くの参画団体が参加して会が進行した。また、会の中で車いす使用の参加者が登壇できるよう配慮された県民会議でした。

【 内容 】

開 会 定刻のとおり会が開催された。

1 静岡県挨拶（副知事 吉林章仁 氏）

- ・県では、昨年9月に発足した県民会議で差別の解消や合理的配慮など実施し、共生を目指している。本日は参画団体推薦の表彰団体の事例発表があります。
- ・現在、タクシー協会との連携によりUDタクシーの導入、障害者に対する声掛けサポートを実施しています。
- ・差別の無い社会を目指しているが、最近障害者の宿泊を断った事例などあり、県では差別解消を県民に周知したい。

※以上のような挨拶があった。（概要）

2 静岡県の取組状況説明（県健康福祉部長 池田和久 氏）

(1) 相談体制の整備

- ・平成29年6月1日に、県総合福祉会館4階（県社会福祉士会）に、「静岡県障害者差別解消相談窓口」を設け、専門性の高い専任相談員（社会福祉士）を配置した。企業からの相談にも応じている。（☎054-252-9800）
- ・相談の状況は、平成28年度103件の相談があり、平成29年度は、202件の相談があった。行政に関する相談61件、商品販売サービス29件等の相談が多かった。

(2) 障害のある人への心づかい推進事業

- ・ヘルプマークの推進 障害があるが外見ではわからない人への配慮を知らせるマークとして周知している。（平成30年2月から対象者に配布している）
（本会でも、平成30年6月1日の総会・研修会の資料の中で紹介しました。）
- ・UD（ユニバーサルデザイン）タクシー導入、企業向け事業として購入費を助成した。
（平成29年度の導入実績57台）
- ・駅のホームや屋外で、障害者に円滑な行動ができるよう声掛けができるよう「声掛けサポーター」の養成を行っている。交差点で「渡ってもいいよ。止まって。」など、言える県民を目指す事業です。

3 表彰式（障害を理由とする差別を解消する取組に関する知事褒章）

8組の功績のあった個人・団体に副知事より表彰状が授与された。

- ・ I Z U こどもDEマルシェ実行委員会
- ・ 静岡県ことばと心を育む会
- ・ 商業組合静岡県タクシー協会
- ・ (特非) みんなの家
- ・ 細井佐織（個人）
- ・ マックスバリュ東海（株）
- ・ 青いかば旅行者
- ・ 島田市障がい者福祉連絡会



①副知事より受賞された「青いかば旅行者」



②副知事より受賞された「島田市障がい者福祉連絡会」

4 表彰事例発表

(1) 青いかば旅行者

平成18年に旅行者代表が進行性難病になり、日々の生活や旅行など外出時の困難を感じて、誰にとっても暮らしやすい訪れやすい地域を願い起業した。インターネット専業の旅行社で営業所を持たない。

地域への受け入れツアーでは、中高生のボランティアによる「車いすサポート」や「催しサポート」で健常者と障害者の差別なく対応している旅行社ですとの発表がありました。



(2) 島田市障がい者福祉連絡会

こころのバリアフリー周知活動を行っている。県内外で469店舗の協賛を経て、各店舗のバリアフリーへの協力と障害者が入店可能な店舗であることを知らせるステッカーを外からわかるように貼付することを依頼している。活動の状況や内容をホームページやフェイスブックで発信し賛同者が日増しに増えているとの発表があった。



5 講演

演題「僕が世界で感じたこと ～声掛けから始めよう～」

講師 車いすラグビー日本代表 若山英史 選手

世界選手権で優勝した。メダルは、健常者用と違い、振ると音がする金・銀・銅と音色が違い、視覚障害のある人にも分かるようにしてある。

選手として、海外派遣で外国を回ったがどの国も私たちに気軽に声を掛けてくれる親しみとコミュニケーション能力の高さを感じる。

今日は、車いすラグビー競技について知ってほしい。

この競技は、男女混合で障害の度合いでポイントがあり合計8.0ポイントになる人数で行う。女子が入ると8.5ポイントまでOK等の講話がありました。



以上 報告します。

記載者 遠藤師正